

玉川上水・野の花だより No. 25

フシグロセンノウ

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 7月5日

深緑の森の中に、鮮やかな朱色のフシグロセンノウが咲きました。5月に咲いたマツモトセンノウと同じ、なでしこ科の野の花です。フシグロという名前は、節が、濃い紫から黒い色であることに起因しています。茶花として、古くから用いられてきました。

フシグロセンノウは、漢字では「節黒仙翁」と書き、不思議な名前ですので、皆さまにご紹介するために、調べてみました。

センノウは、「昔、中国から伝えられたもので、山城（京都府）嵯峨の仙翁寺にあったので、このように言う」と記載されています（新牧野日本植物図鑑）。

更に、室町時代の古辞書である『下學集』には、「仙翁花 嵯峨仙翁寺、始めて此の花を出だす、故に仙翁花と云う」と記載されています。江戸時代の『大和本草』では、「センヲウハ嵯峨ノ仙翁寺ヨリ出タルユヘ名ツクト云。仙翁寺今ハナシ」とあり、すでに仙翁寺は、絶えていたことがわかります。現在は、「嵯峨鳥居本仙翁町」という地名が残っています。

嵯峨野にあった仙翁が、何故、1000年の時を超えて、人びとに愛され続けているのか、謎はつきません。

小さな野の花ですが、そこに秘められた歴史には、絵巻物のような世界が広がっています。



フシグロセンノウ 2026年 7月2日（大山緑道）